



有為転変の歴史のなかで 若き機業家たちとの出会い

桐生明治館（旧群馬県衛生所）

国の重要文化財として相生町二丁目に優雅な姿を見せる桐生明治館は、もともとこの地に建てられたものではなかった。医学校を併設した群馬県衛生所として明治11年（1878）に前橋の中心部に建てられたものである。ただ衛生所としての寿命は短く翌年に廃止、医学校も同14年に廃校となった。その後、この建物は県立女学校、師範学校付属小学校、織物陳列館、群馬県農会事務所と変遷を重ねた。昭和3年（1928）に山田郡相生村が県から払い下げを受け、相生村役場として使われ、現在に至るのが桐生明治館の有為転変の歴史である。

その医学校として機能した僅かな期間、この建物は桐生織物の先覚者たちとの貴重な出会いがあった。幕末から明治初年にかけて、両毛の機業地には西洋から新しい化学染料が輸入されたが、染料の使い方が分からず不良品が続出した。若き日の機業家森山芳平や後藤定吉らはあらゆる機会を捉えて染色法の研究に没頭した。群馬県衛生所の医学校で化学の講義が行われるのを知り、芳平らは県令・相取素彦（かとりもとひこ）の許可を得て聴講生となった。向学の志が強い若者たちは、毎週土曜日、桐生から前橋までの九里の道のりを草鞋ばきで通い、二年をかけて「化学染色術得業候事」の修業証書を得ている。

そのメンバーは森山、後藤を含めた小林久太郎、横山久四郎、長竹三郎の五人で、いずれも桐生の有力な機業家・染織家となった人たちである。

桐生明治館は昭和51年に国の重要文化財に指定され、同59年から61年にかけて半解体工事が実施され、創建当時の姿に復旧された。

- 住所：桐生市相生町二丁目414-6
- 電話番号：0277-52-3445
- 開館時間：午前9時～午後5時（休館日：毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始）
- 観覧料：大人150円 小人50円
- 国重要文化財